

生徒指導のなかで
はぐくむ①

“自己存在感”

1

島根県教育センター
教育相談スタッフ・相談セクション



生徒指導とは

【生徒指導の定義】

社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと児童生徒が、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと

出典：「生徒指導提要」文部科学省2022年

2022年に改訂された新しい生徒指導提要。
そこには、
「生徒指導の定義」が、このように示されています。

生徒指導とは

【生徒指導の目的】

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を**支える**と同時に、自己の**幸福追求**と**社会に受け入れられる自己実現**を**支える**。

出典：「生徒指導提要」文部科学省2022年

また、生徒指導の目的として、これまでも語られてきたことに加えて、「子どもたち自身の幸福追求」と「社会に受け入れられる自己実現」を「支える」という大きな目的も明文化されました。

生徒指導とは

すべての児童生徒が

- 幸せに
- 自分らしく
- 伸びていく

すべての
教職員によって

“**支え、応援する**”営み

すべての子どもたちが

- ★「幸せになること」
- ★「自分らしく居られること」
- ★「自ら伸びていこうとすること」

これらを

★すべての教職員によって、★支え、応援する営み
それが「生徒指導」なのです。

生徒指導のなかではぐくむ①

“自己存在感”



生徒指導のなかではぐくむ①
今回は「自己存在感」をテーマに
みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

生徒指導の実践上の視点

学校生活のあらゆる場面で、
「**自分も一人の人間として大切にされている**」という**自己存在感**を、児童生徒が**実感する**ことが大切

出典：「生徒指導提要」文部科学省2022年

改訂された生徒指導提要には、生徒指導・実践上の視点の1つとして次のように示されています。

「学校生活のあらゆる場面で、
自分も一人の人間として大切にされている という
自己存在感を
児童生徒が実感することが大切です」

前提となる「子ども観・発達観」

もともと子どもは、周囲の人から

- ・ 関心をもたれている
- ・ 大切にされている
- ・ 認められている
- ・ 理解されている
- ・ 愛されている



等と、感じられると

出典：教師用指導資料「ささえあって」島根県教育委員会

私たちが生徒指導に取り組む上では、
まずはその前提として、どのような「子ども観や発達観」をもっているかにつ
いて、
見つめていく必要があります。

- ★もともと子どもは、
周囲の人から★
- ・ 関心をもたれている
 - ・ 大切にされている
 - ・ 理解されている
- ★等と感じられると、

前提となる「子ども観・発達観」

自らの内にある**自己成長力を発揮し、主体的・意欲的に物事に立ち向かっていく**



出典：教師用指導資料「ささえあって」島根県教育委員会

自らの内にある
「自己成長力」を発揮して、
主体的・意欲的に物事に立ち向かっていく
そのような存在であると言われていきます。

前提となる「子ども観・発達観」

☑子どものもつ「自己成長力」を信じていることができるか。

☑自らの「子ども観・発達観」の振り返りやアップデートが
できているか。



どの子どもも、本来、自分の力で成長していく力を持っている存在であるということを信じ、常に心に留めておくことができる自分であるかどうか。

私たち教職員には、常に自らの「子ども観」や「発達観」をみつめる姿勢が必要です。



子どもたちが、本来持っている自己成長力を発揮し、
幸せに、自分らしく、伸びていくために必要な条件。

それは、★
子どもたち自身が、このような感覚を、
★実感として持つことができている状態がある、ということです。



子どもたちにこのような実感を育むために
★私たち教職員との関係のなかでは、
どのようなことを大切にしていけばよいのでしょうか。

ミニ
ワーク①

子どもたちの“実感”を育むには？

私たち教職員との関係のなかで、子どもたちにこのような感覚を育むために、
・できそうなこと・必要なこと・大事にしたいこと 等
思いつくことを箇条書きしてみましょう

- ・関心をもたれている
- ・大切にされている
- ・認められている
- ・理解されている
- ・愛されている etc.

<input type="checkbox"/>	_____	<input type="checkbox"/>	_____
<input type="checkbox"/>	_____	<input type="checkbox"/>	_____
<input type="checkbox"/>	_____	<input type="checkbox"/>	_____



ではここで、1つめのミニワークを行います。

私たち教職員との関係のなかで、
子どもたちにこのような感覚を育むために、
できそうなことや大切にしたいことについて、
考えてみたいと思います。

動画を一旦停止して、
思いつくことを、箇条書きしてみましょう。

書き終わったところで動画の続きをご覧ください。

ミニ
ワーク①

子どもたちの“実感”を育むには？

私たち教職員との関係のなかで、子どもたちにこのような感覚を育むために
・で
思い

- ・関心をもたれている
- ・大切にされている

いる
る
etc.

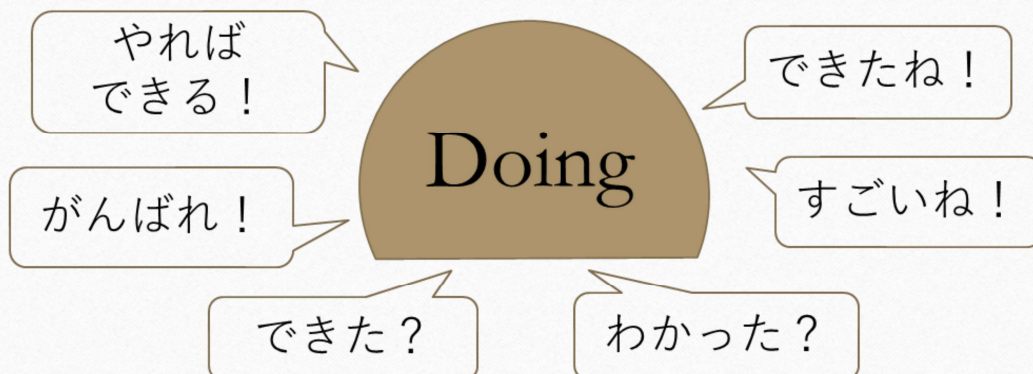
動画は一旦停止



記入→話し合い



学校は「できる」「わかる」を目指す場所



「行為」に関する声かけ・かかわり

ではこれから、私たち教職員の、子どもたちへの働きかけについて考えてみましょう。

学校は、「できるようになること」「わかるようになること」を目指す場所です。

私たち教職員は子どもたちにさまざまな働きかけを行っています。★

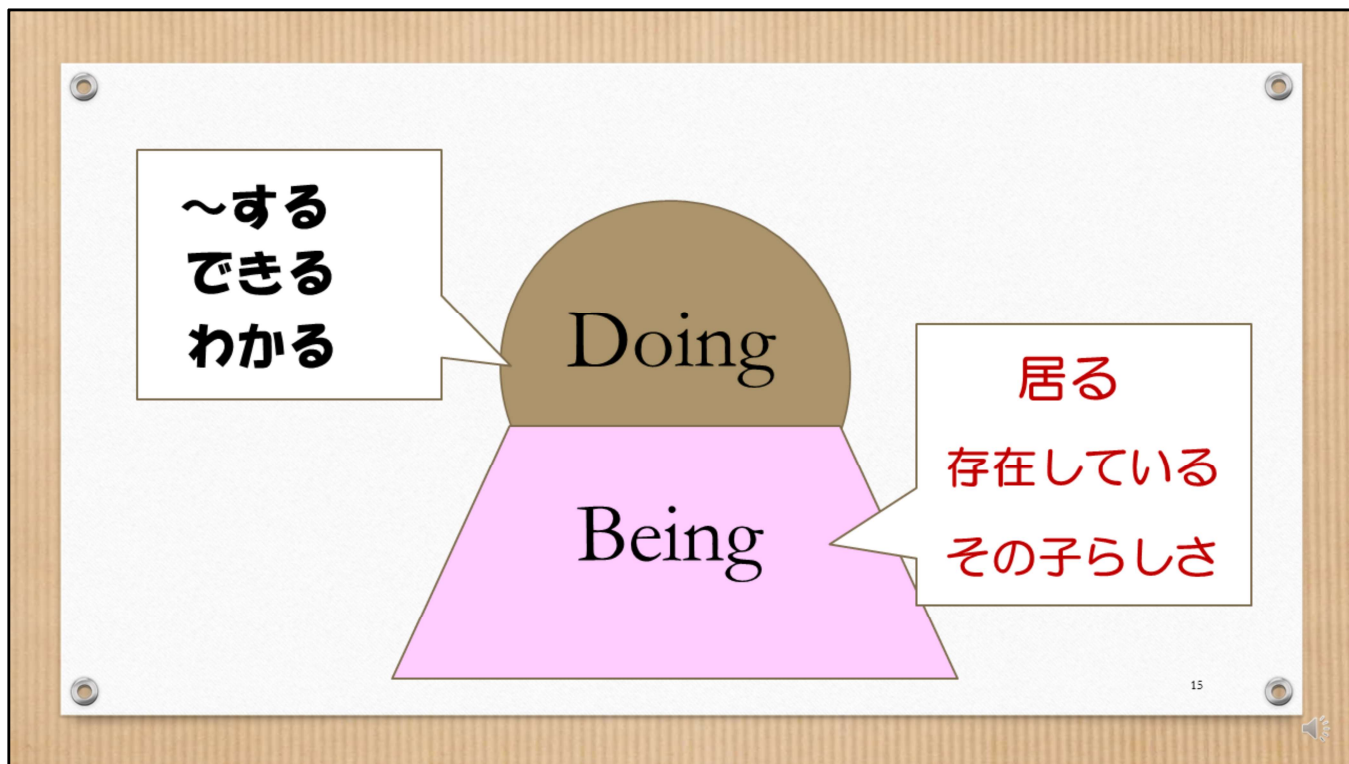
子どもたちのやる気を引き出したり

成長に繋がったりするために、このような声かけが必要な場面はたくさんあることでしょう。

しかし、このような声かけについては、次のような視点で見るともできます。ここに示した言葉がけは

いずれも、★Doing「行為」に関するものである、ということ。

「何かをする」「できること」「わかること」に焦点をあてた言葉がけであるといえます。



もちろん、これはこれで、必要で大事なかわりですが、

さらに、もう一つ、大切にもっておきたい視点があります。

それは、★Beingその子がここに「居ること」「存在」そのものに焦点をあて、認めていく、というかわりの視点です。

「存在」への承認を伝える

「自己存在感」を育む

Being

居る
存在している
その子らしさ

16

何かをすること、できること、わかること、に焦点をあてた、Doingへのかかわりだけでなく、
Beingその子の存在への承認を態度や言葉で意識的に伝えていくこと。★

私たち教職員のそのようなかかわりが、
子どもたちの「自己存在感」に繋がっていきます。



学校で取り組むさまざまなDoing、「学び」や「人とのかかわり」は★安定したBeingの土台の上に成り立つもの。

子どもたち一人一人が「いま、ここに、存在している」★そこに焦点をあて、認め励まし勇気づけるといのかかわりを通して、子ども達に、★このような感覚を育みたいものです。

ミニ
ワーク②

「かかわり」を2つの視点で 振り返ってみよう

(1) ミニワーク①で考えた
「かかわり」を次の視点で
分類する。

ミニ
ワーク① 子どもたちの“実感”を育むには？

私たち教職員との関係のなかで、子どもたちにこのような実感を
育むために、
・できそうなこと・必要なこと・大事にしたいこと ※
思いつくことを書き書きしてみましょう

・関心をたれている
・大切にされている
・認められている
・理解されている
・愛されている etc.

<input type="checkbox"/> がんばっている場面で 声をかける	<input type="checkbox"/> 日記のコメント
<input type="checkbox"/> 子どもの話をよく聴く	<input type="checkbox"/> 励ましの声かけ
<input type="checkbox"/> 学活で互いの良さを認 め合う活動を取り入れる	<input type="checkbox"/>

- ・“D o i n g”の視点でのかかわり
- ・“B e i n g”の視点でのかかわり

ではここで、2つめのミニワークを行います。

さきほど、1つめのミニワークで考え、書き出した「かかわり」の視点を、★
「D o i n g」と「B e i n g」の2つの視点で、
整理してみましょう。

ミニ
ワーク①

子どもたちの“実感”を育むには？

私たち教職員との関係のなかで、子どもたちにこのような感覚を育むために、
・できそうなこと・必要なこと・大事にしたいこと 等
思いつくことを箇条書きしてみましょう

- ・関心をもたれている
- ・大切にされている
- ・認められている
- ・理解されている
- ・愛されている etc.

Do がんばっている場面で
声をかける

Do
 Be 日記のコメント

Be 子どもの話をよく聴く

Do 励ましの声かけ

Do
 Be 学活で互いの良さを認
め合う活動を取り入れる



ワーク①で書いた、それぞれのかかわりについて、2つの視点で見つめたときに、
Doingの視点でのかかわりに分類されるものには、★□のなかに、「Do」と
Beingの視点でのかかわりに分類されるものには、★同様に「Be」と記入をして
みましょう。
どちらの視点も含まれると感じられる場合は、★「Do・Be」両方記入をしてく
ださい。

どちらにも分類しにくい場合は空欄でもかまいません。

ミニ
ワーク②

「かかわり」を2つの視点で 振り返ってみよう


(2) 分類したことをもとに
ペアやグループで話し
あってみましょう。

ミニ
ワーク① 子どもたちの“実感”を育むには？

私たち教職員との関係のなかで、子どもたちにこのような感覚を
覚えた時に、
・できそうなこと・必要なこと・大事にしたいこと 等
思いつくことを整理書きしてみましょう

・関心をもたれている
・大切にされている
・認められている
・理解されている
・愛されている etc.

<input type="checkbox"/> Do	がんばっている場面で 声をかける	<input type="checkbox"/> Be	日記のコメント
<input type="checkbox"/> Be	子どもの話をよく聴く	<input type="checkbox"/> Do	励ましの声かけ
<input type="checkbox"/> Be	学活で互いの良さを認 め合う活動を取り入れる	<input type="checkbox"/>	



【話し合いの視点】

◎かかわりを“Doing”“Being”

2つの視点でみつめてみての気づき

◎自分自身のかかわりを振り返って感じたこと

分類し終わったら、それを元に、感じたことや考えたことについて、ペアやグループで話し合ってみましょう。

記入と話し合いをしている間、動画は一旦停止してください。

話し合いが終わったところで、動画の続きをご覧ください。

ミニ
ワーク②

「かかわり」を2つの視点で
振り返ってみよう

(2)

動画は一旦停止



記入→話し合い

【記



2つの視点での振り返り

◎自分自身のかかわりを振り返って感じたこと

「を育むには？」

- ・関心をもち続けている
- ・大切にされている
- ・認められている
- ・理解されている
- ・愛されている etc.

ント

かけ

「自己存在感」をはぐくむかわり

○「やり方」はさまざま。

人それぞれ自分にフィットする方法がある。

○スキルよりマインド。

教職員の価値観やまなざしは、子どもたちへ自然と伝わっていく。

ミニワークに取り組んで気づかれたことはあったでしょうか。

★子ども達の「自己存在感」をはぐくむための教職員のかかわり。
「やり方」そのものは、人それぞれ。教職員の個性や立場、子どもの発達段階等によって
さまざまな方法があることと思います。
お一人お一人が、自分にフィットする方法を、見つけていていただければと思います。

★また、私たちのマインド、つまり価値観や子どもへ向けるまなざしは、
意図せずとも子ども達へ自然と伝わっていくものであるということをきちんと
自覚しておくことは、
かかわる「やり方」そのものよりも、大切なことであるといえるでしょう。



最後に、自己存在感を育む教師のかかわりの具体例として、

★4つの「かける」というキーワードをお示しして、今回のプログラムを終了します。

- ★○気にかける
- ★○目をかける
- ★○手をかける
- ★○声をかける

さきほどのミニワークで考えた内容も、4つのキーワードで整理してみることができます。

気にかける



- ・ 子どもが話したことや出来事を覚えている
- ・ 信じる
- ・ 子どもの思いを想像する
- ・ わかろうとする
- ・ 自分のかかわりを振り返る

気
に
かける



- 肯定的な関心
 - 元気かな？
 - どんな表情かな？
 - 変化はないかな？
 - 何か困っていないかな？
- etc.

目を
かける



- 注意深く「診^みる」
- にっこり微笑む
- 目を合わせる
- 明るい穏やかな表情
- 持ち物や服装・髪型の
変化に気づく

etc.

手を
かける



- 手伝う
- 助ける
- 「一緒に○○しよう」
- 丁寧にかかわる
- 途中経過も確かめながら
- 最後まで見届ける

etc.

声を かける



- 穏やかな声のトーンで
- 教師の方からの声かけ
- 笑顔であいさつ
- 何気ない雑談
- 子どもの話を聴く

声をかける



- 名前を大事に呼ぶ
- その子の好きなことや得意なことを話題に
- 小さな気づきを言葉に

髪切った？

元気なさそうに見えるけど何かあった？

声を
かける

- ・“届く”言葉
- ・“次”に繋がる言葉
- ・気持ちを伝える言葉



ありがとう

助かった！

嬉しいな

また明日ね

元気？

待っていたよ

子どもたちは
自らの内にある**自己成長力を発揮し、**
主体的・意欲的に物事に立ち向かっていく



「自己存在感」の実感を育むことで、
子どもたちが★自らの内にある自己成長力を発揮し、
主体的・意欲的に物事に立ち向かっていくことができるようにしていく。
それが、「生徒指導」という営みなのです。

生徒指導とは

すべての児童生徒が

- 幸せに
- 自分らしく
- 伸びていく

すべての
教職員によって

“支え、応援する”営み

すべての子どもたちの
幸せと成長を願って

日々の生徒指導を通して、
教職員みんなで、
子どもたちを支え、応援していくことができますように。

生徒指導のなかではぐくむ①

“自己存在感”



【参考・引用】

- ・生徒指導提要（文部科学省）2022年
- ・教師用指導資料 ささえあって（島根県教育委員会）1995年
- ・乳幼児期から育む自尊感情（近藤卓）2015年 エイデル研究所
- ・どうしても頑張れない人たち
～ケーキの切れない非行少年たち2（宮口幸治）2021年 新潮新書
- ・教師たちのとっておきの言葉（諸富祥彦 他）2022年 図書文化社

【BGM】

- ・甘茶の音楽工房 <https://amachamusic.chagasi.com/>

以上で本研修プログラムは終了となります。
お疲れ様でした。